トップページ

2022年3月30日

トピックス

令和４年３月３０日

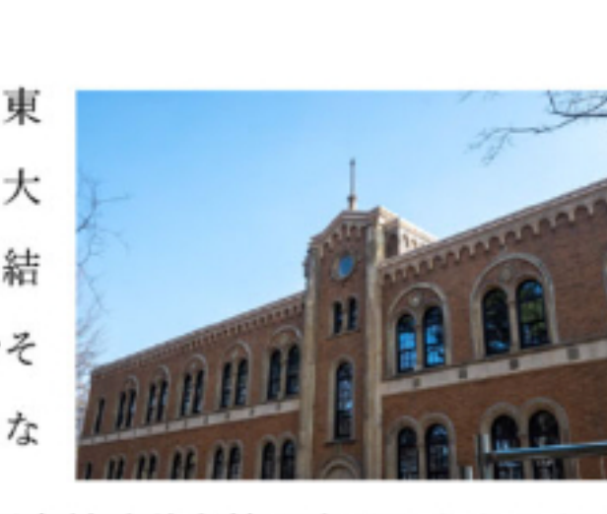
一橋大学キャンパスの近況

最近の図書館時計台棟と東本館の佇まい

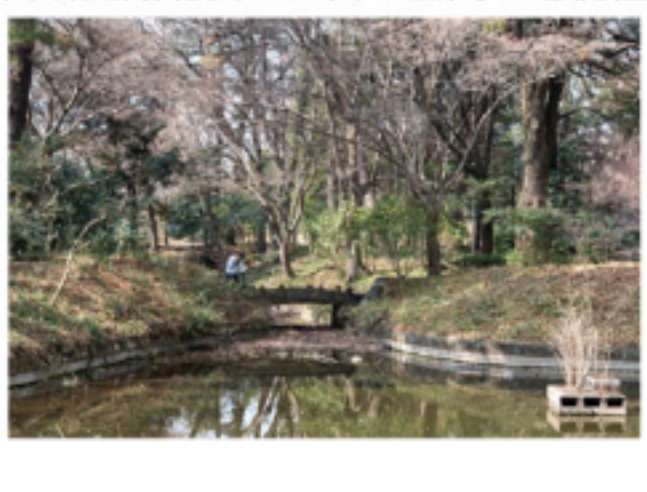
令和３年度の卒業式を終えた母校キャンパスは、春の穏やかな陽光の下で、いつに変わらぬ社会科学の殿堂に相応しい学問の府の佇まいを見せています。この卒業式を前にして大学も環境整備をし、また植樹会も兼松講堂や西本館、図書館時計台棟周辺に積もった落葉の清掃などを実施しました。コロナ禍という大きな試練のなかで大学施設課とも協力しつつ、活動を続けてきたこの一年でした。

折に触れ報告申しあげておりますが、近年、４月の終わり頃から 11 月の中頃まではキャンパス内に繁茂する蔓植物の除去も含めた下草刈りを中心にした作業を、また植物の生命活動が衰える晩秋から春先にかけてはキャンパス内の植込みの刈込、間伐や除伐を含めた要管理木への対応、キャンパス内に増える灌木類への対応などを主体に活動を行ってきました。これの作業は、大学施設課と話し合いながら大学の行う作業と競合することのないよう棲み分けをしつつ、「緑地基本計画」に沿った大学キャンパス全体の景観やキャンパス内の自然の保全、作業の効率化などに配慮しながら行われています。このような状況下、本年度の活動を閉じるにあたり、最近のキャンパス内の森や植物の状況、またキャンパスの景観について触れてみます。

(下草刈り作業と間伐後のタケの処理作業)



まず、多くの方が興味をお持ちの東キャンパスの状況です。東キャンパスでは、データサイエンス学部の設置を見据えた大学による東本館改修プロジェクトとその周囲の整備事業の結果、景観が大きく変わりました。東本館周辺では、倒木のおそれがある樹木、建物に近接し、改修作業やその景観の妨げとなるヒマラヤスギやイチョウが伐採されました。その結果、図書館時計台棟と向かいあうように東本館の西側に設置された時計台を望めるようになり、往年の建物の美しい姿が再現されました。加えて、シュロや灌木類、ササなどの侵入が著しく、また多くの廃棄物が捨てられ、何らかの手立てを講ずる必要のあった東本館西側の区域も、同館改修プロジェクトにあわせて整備がなされ、その結果、アカマツ、コナラ、ヤマザクラなどが残る武蔵野の森の面影を残す林に生まれ変わりました。この区域の緑地管理目標は「雑木林の性質を保つ林として維持するとともに亜高木と低木を増やし、遮蔽効果を高める」であり、そのための素地が整ったものと思います。**(改修と周辺整備で現れた東本館時計台と整備された西側の森)**



植樹会においてもキャンパス内の空間の連続性を再現することを目的に、通常の作業に加え、長い間手の入ってこなかった区域の整備作業を一つのプロジェクトと捉え行ってきました。これらの作業の中には、ヒメコウゾなどに覆われた社会科学統計情報研究センター周辺の灌木の除伐作業、西キャンパス北側の竹林およびその周囲の整備作業があります。灌木類の除伐や竹藪化した竹林内の竹の間伐を行うことにより、広々とした空間がそこに出現しています。また第２研究館西側周囲のイロハカエデの間伐やイイギリやイチョウの伐採、キンモクセイの剪定により、同研究館北側と西側の空間の連続性が保てるようになりました。同様のプロジェクトがひょうたん池の周辺でも行われており、その結果、ひょうたん池周囲の空間と磯野研究館前やハンドボールコート東側の空間の連続性が再現されました。このように、キャンパスの景観の回復もその作業を通じて試みています。**(竹林整備により拡大した空間とひょうたん池周囲の整備により隣接地と共有されるようになった空間)**

一方、新生植樹会発足以来まもなく 20 年です。この 20 年という時の経過は樹木にとっても相応の影響を受ける期間です。嘗ては元気であったアカマツもカンフル剤の樹幹注入が必要となり、キャンパスの象徴的樹木であったコナラやクヌギもその多くは大径木に成長する一方で老齢化が進んでいます。その結果、多くのコナラがナラ枯れ病に冒され、キャンパス内にはコナラの大樹がなくなるおそれすらあります。また、ソメイヨシノを中心にしたサクラの老齢化による衰弱が著しく、大きな枝や幹全体が枯損したものをキャンパス内の随所で目にします。「緑地管理計画」で「ゾーン IV」に分類されている区域も含め、キャンパス内の老齢化する樹木への対応と管理、円滑な世代交代のために、伐採跡地などへの植樹などを計画的に行なうことが、キャンパスの自然や景観の健全な維持のために必要となっています。

(ナラ枯れ病のコナラの根元とその伐採・サクラの枯損木)

厄介な外来植物も増えています。オオブタクサ、ワルナスビ、アメリカヤマゴボウ、アメリカオニアザミなどの極めて繁殖力が強く、キャンパス内に自生する在来の植物を駆逐したり、人間にも悪影響を及ぼしたりする植物です。積極的な駆除が必要で、これらの植物への新たな対応も必要となっています。

(繁茂する生命力旺盛なオオブタクサ)

大学構内の自然や景観管理については多方面にわたって考えていかなければならないことが生じ、また増加しています。そのためには、長期的視点に立った計画的な活動が必要になっています。植樹会発足の原点に立ち戻り、大学と協力しながら、キャンパスの森の抱える構造的な問題の解決に資するように努めたいと考える次第です。

(キャンパスの春の花々：キクザキイチゲ、モクレン、イチリンソウなど)

◆ **掲載写真は大学キャンパス内で作業などの都度撮影したものです。**

一橋植樹会作業班長 飯塚義則（昭 50 経）

お知らせ

【重要】

会員の皆さまの登録メールアドレスを変更された場合は一橋植樹会事務局宛ご連絡願います。

ご連絡はこちら

※メールの宛て先は一橋植樹会事務局となっています

お問い合わせはこちら

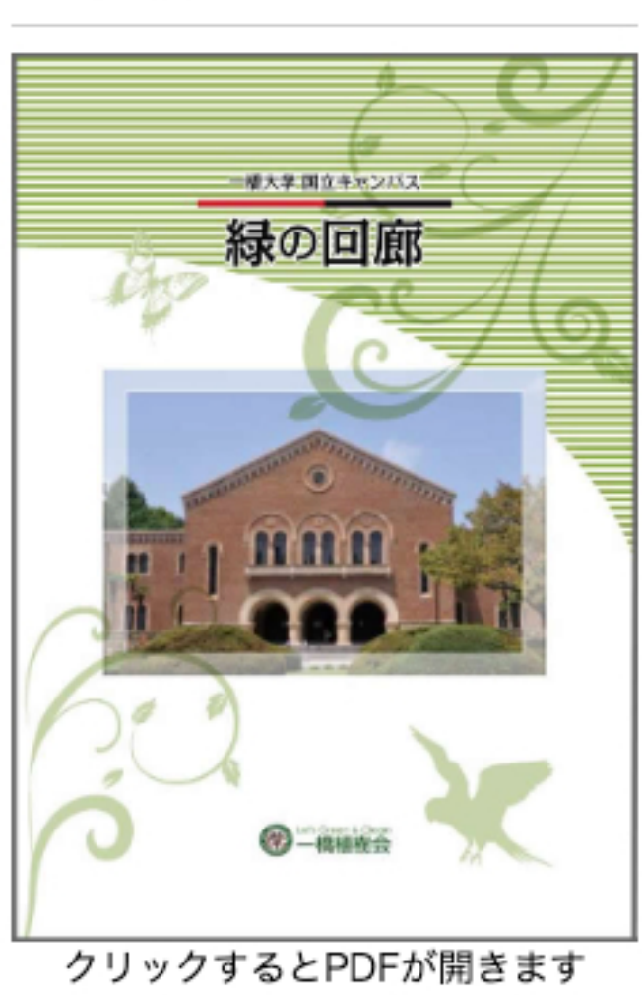
お気軽にご相談・お問い合わせ下さい。

植樹会史

クリックするとPDFが開きます

クリックするとPDFが開きます

緑の回廊



クリックするとPDFが開きます

クリックするとPDFが開きます

キャンパスの四季

皆様の声

ご意見、ご要望、投稿などはこちら

※メールの宛て先は一橋植樹会事務局となっています

バックナンバー

- トップページ
- 実施作業
- 今月の野鳥
- キャンパスの四季
- 寄稿文
- New! トップページ PDF版
- New! 総会資料PDF

旧サイトはこちら >>

What's New

● 臨時作業

３月に入り新規感染者の数字も漸減を示し、まん延防止等重点措置も21日の期限で解除され、ワクチンの3回目の接種も進んでいますが、私たちの作業は引続き厳重な管理を心掛けながら制限ある形で続行しています。
今月は5回の臨時作業を計画・実施しました。先月お伝え出来なかった最終回2月27日と併せて作業の模様を報告申し上げます。尚今月の25日及び最終回31日の報告は　来月掲載とさせていただきます。

(1)2月27日（日）
(2)3月3日（木）
(3)3月11日（金）
(4)3月17日（木）
の4回の作業の内容は次の2点です：

- ひょうたん池周辺整備の継続：樹木の間伐、植込み / ツツジの剪定、ササの刈取り、散策路の整備
- 3月18日の卒業式に備えて西キャンパス中央部の整備促進：中央庭園から図書館時計台前、西本館にかけての一帯　及び矢野二郎先生像前から兼松講堂西側のエリアの落ち葉等の清掃に注力しました。

併せて灌木、草花の成長不活発期の内に、ササや下草の成長点をしっかりと刈取るべく、根元から確実に除去する事、灌木等は枝の元でのカットに意を注ぎました。

落ち葉の清掃

結構な重さに

シュロの手入れ

ここの落ち葉もきれいに

トリーマーで形を整え

落ち葉を捨て場へ

参加者：樋口（41法）、関戸（40社）、津田（42商）、徳永（42商）、高原（42社）、谷中（45社）、小槙（46法）、林（47経）、河村（49経）、小山（49法）、山口（49法）、須藤（50商）、飯塚（50経）、秦（50社）、木田（50社）、井田（51商）、山田（51経）、藤原（義）（51商）、藤原（潤）（51法）、村上（52法）、蔵屋（53商）、善宝（53法）、

●梅二題

先月のホームページでは　兼松講堂前の白加賀はまだ硬い蕾のままとお伝えしましたが、例年のように綺麗な花を咲かせています。
10年前の大雪で　幹の中心部が裂け　太い枝が折れる等の大きな損傷を蒙りましたが、支柱で支え　幹に手当てを加える等の適切な看護が効を奏して、数年後には見事な復帰を遂げた"受難の樹"です。
「緑の回廊」には、昭和18年(1943)卒業の専養会の植樹と紹介されています。学徒出陣の年です。天神様のご神木から"学問を放棄せざるを得なかった先輩の無念さが伝わってきます"　とあります。
それから80年　連日の不幸な報道に人の世の歩みの跛行性を感じ　平穏な日々の意味と大切さに改めて心が向く思いがします。

西プラザ前月桂樹横の白梅です。今月に入り華麗さを増しました。時計台を背景に　松を従え咲いています。

●第49回一橋植樹会総会案内

第49回植樹会総会は、５月21日（土）に「書面表決にて議決」することにいたしました。総会資料は４月末に全会員に郵送いたしますので、議案の内容をご覧いただき、議案への賛否を植樹会ホームページの回答フォームまたはファックス送信でご回答いただけますようお願いいたします。
お問い合わせ（一橋植樹会事務局）
Ｅメール：jimu@hitotsubashi-shokujukai.com
ＦＡＸ：０３-３２６２-２１５０
電　話：０３-３２６２-０１１２

※場合により、電話応対ができないことがありますので、悪しからずご了承ください。

●アカマツ基金へのご寄付

平成30年5月設立から4年目の半ばを過ぎましたが、この間170件余累計900万円超のご寄付を頂戴いたしました。誠にありがとうございます。
募金の中から　計画に沿ってアカマツへの薬剤樹幹注入費用を支出しておりますが、薬剤注入継続と今後アカマツの補植の為の資金募集の必要性は止む事がありません。引き続きアカマツ基金へのご支援をお願い申し上げます。なお、アカマツ基金は一橋大学後援会内の「植樹会基金」の中に設置されています。一橋大学基金とは別物なのでご注意願います。

基金設立の経緯と運営の現状報告　及びご寄附いただく際の手順は下記をご覧ください：

アカマツ基金設立の趣意　→
アカマツ基金の現状　→
ご寄付の流れ・手続き　→

3月にお二人の方から再々に亘るご寄付をいただきました。誠に有難うございます。趣旨に沿い大切に使わさせていただきます：
波多野　昇（昭29社）
坂田　時恩（昭40商）

入会に関しましては、**会員登録はこちら**をクリックしていただき、必要事項記入の上、支払方法「如水会DCカード口座よりの自動引落し」を選択し、「登録」ボタンを押していただければ、すぐに会員として登録されます。

入会に関しましては、**会員登録はこちら**をクリックしていただき、必要事項記入の上、支払方法「如水会DCカード口座よりの自動引落し」を選択し、「登録」ボタンを押していただければ、すぐに会員として登録されます。

← 2022年2月28日　　2022年4月30日 →

Copyright © 一橋植樹会 All Rights Reserved.